

## 授業という開発実践

### — わたしたちはどんな「人材」を「育成」するのか —

(企画責任者、討論者) 池見 真由  
札幌国際大学

E-mail: mayu-ikemi@ts.siu.ac.jp

(司会) 大山 貴稔  
九州工業大学

(討論者) 松本 悟  
法政大学

(討論者) 栗田 匡相  
関西学院大学

(討論者) 汪 牧耘  
東京大学

キーワード: 人材育成、授業、大学教育、国際開発、国際協力

#### 要旨

国際開発・国際協力に関する授業が行われている学部や大学院などの教育現場では、興味を持って専門的に学んでいる学生もいれば、それほどの高い関心を持たずに受講している学生もいる。また、将来国際開発・国際協力に関わる仕事で働きたいと考えている学生もいれば、全く別の進路を目指している学生もいる。こうした興味関心の違いや希望する就職先が異なるなど多種多様な学生たちを相手に、教員や指導者は授業を行う上でどのような工夫や配慮が必要とされているのか。また、国際開発・国際協力分野の授業を通して、どのような人を育てるのか。さらに、学ぶ目的や立ち位置が異なる学生個々に見合った意義と教育効果を生み出すために、国際開発・国際協力分野の授業をどのような内容や方法で行い、何を教え・伝え、それがどのような人材育成に繋がるのか。

以上の問題関心を背景に、国際開発学会人材育成委員会は本セッションを企画し、実際の教育現場で国際開発・国際協力分野の研究、演習、授業を行っている立場(教員、指導者)、または受けたことがある立場(学部生、大学院生)の視点から、授業の内容や教材、シラバス、エピソードなどを基に議論を展開する。本セッションで期待される成果としては、上記に挙げた主眼となる問い:「国際開発・国際協力分野の授業を通して、わたしたちは学生に対してどのような学びの機会を提供し、どのような人材を育成するのか」の解につながる貴重な情報、経験知、見解を、専門が異なる研究者同士が互いに共有し吟味する有益な機会となり得る。また、これらの知見を包括的に整理しながら理解をさらに深めていくことで、学生を教え・導き・育てる授業そのものが開発実践であると捉える必要性をあらためて認識し、人材育成の観点から、この開発実践に対して教員や指導者はどうあるべきか、どうすべきかを模索し、実際の教育現場で活かすことに繋げる。